

コミュニティ・スクールとは

「社会に開かれた教育課程」の実現をめざして

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会制度を導入した学校です。

富田林中学校・高等学校では同窓会員や保護者、地域住民、識者等が一定の権限と責任を持って学校運営に参加することで、育てたい生徒像やめざすべき教育のビジョンを共有し、目標の実現に向けて協働できる仕組みを構築し、整備しています。

コミュニティ・スクールの主な3つの機能

【地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の6】

学校運営に関する基本方針の承認

- 育てたい生徒像、めざす学校像等に関する学校運営のビジョンを共有する。
- 学校と運営協議会が互いに当事者意識を持って協働へつながる。

学校運営に関する意見

- 合議体としての意見を述べることで、広く社会の意見を反映させる。

教職員の任用に関する意見

- 基本方針を実現するための教職員配置の観点から意見を述べる。

富校版コミュニティ・スクールの特徴

富田林中学校・高等学校（以降は「富校」と表記）は平成29年4月に大阪府立初の併設型中高一貫校として誕生しました。富校は大阪府富田林市に在り、生徒は大阪府内全域から通学しています。富校版コミュニティ・スクールの特徴の一つは、テーマ型コミュニティか、ローカル型コミュニティかという二者択一の捉えではなく、富校の特性に合わせて両者をバランスよく考えていくことで富校らしいコミュニティ（地域）を創り上げているところです。富校の学校運営協議会は富校がめざす教育理念に共感いただく方々、富校が在る南河内地域に密着した視点から共感いただく方々の両タイプが混在したメンバーにより構成されています。

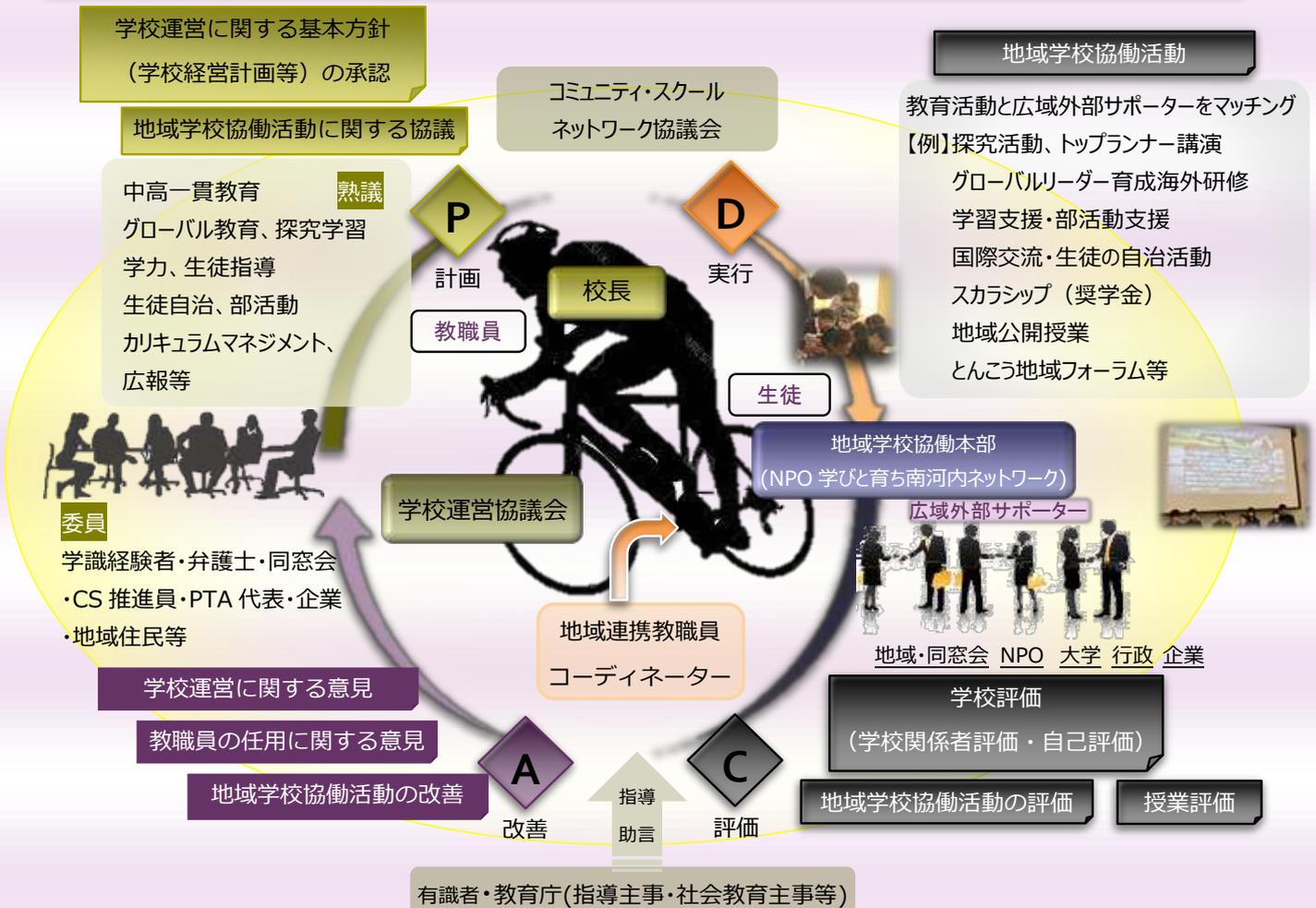


また、もう一つの大きな特徴は地域学校協働本部を中心とした広域外部サポーター（同窓会・企業・大学・行政機関・NPO・地域住民等）との協働活動を展開していることです。協働活動を実現可能とするため、広域外部サポーターと学校運営協議会、学校で構成するコミュニティ・スクールネットワーク協議会（以降は「CS協議会」と表記）を開催しビジョンの共有を図っています。広域外部サポーターとの協働活動を推進する事で、生徒が直接社会とつながり、社会から学び、社会的課題を解決していく力と力が育まれる事をめざしています。

※「地域学校協働本部」・・・幅広い地域住民や団体等の参画により形成された緩やかなネットワーク

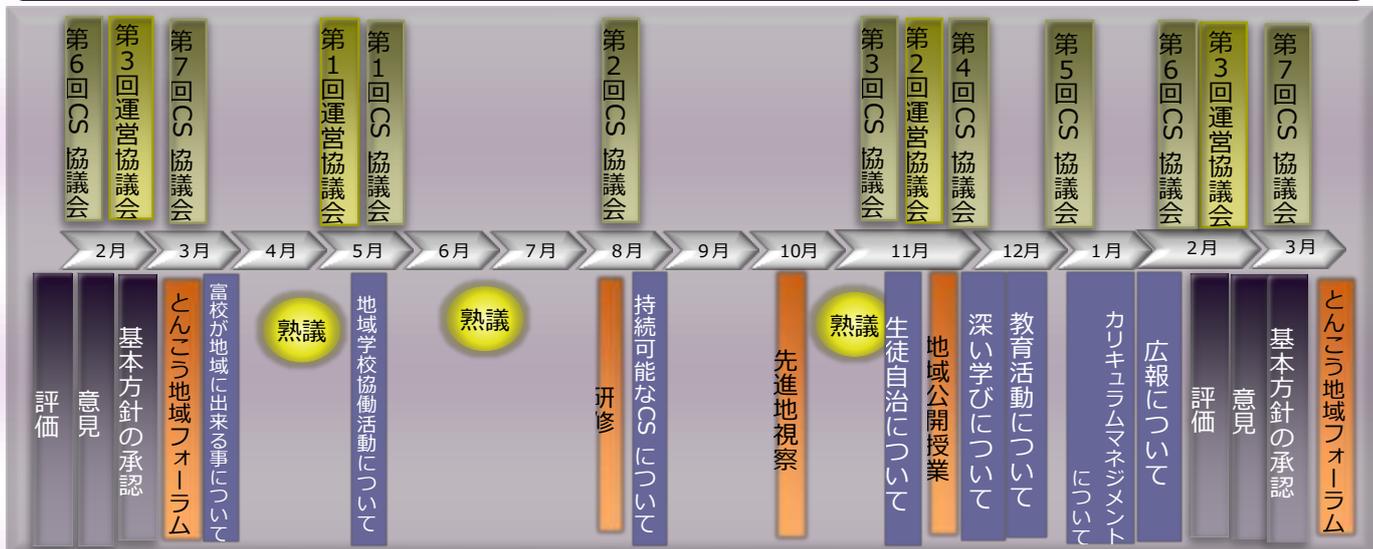
※「広域外部サポーター」・・・本校が発信する教育テーマに対し、役割を引き受け学校運営に参画いただける団体（同窓会・企業・大学・行政機関・NPO・地域住民等）

コミュニティ・スクールネットワーク協議会による コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進



コミュニティ・スクールのしくみを自転車に例えると、前輪が「学校運営協議会」であり活動推進部隊、駆動輪である後輪の「地域学校協働本部」が実働部隊となり活動の後押しをします。学校と地域をつなぐ地域連携教職員とコーディネーターがペダルです。運転するのは校長であり目標に向かってペダルをこぎ、かじ取りや速度調整をします。(学校運営協議会委員コメントより)

学校運営協議会及びコミュニティ・スクールネットワーク協議会の活動事例



地域学校協働活動の例

社会（広域外部サポーター）と協働で行う教育活動

地域協働による探究学習

■ 探究活動（中学）

地域のことを知り、地域の課題について考え、地域に解決策を提案することを目的として中学3年間で取り組んでいます。

① 南河内探究（中学1年）

5つの分野に関連する企業・団体による講義により探究を進めるきっかけとします。南河内の産業、都市政策、企業のCSR活動などについて学びます。

② 社会探究（中学2年）

テーマを設定し、それを解決するために、連携企業および団体を訪問し、聞き取り調査を行いながら、体験に基づく探究を深めます。

③ 提案型社会探究（中学3年）

連携企業および団体と共通のテーマに基づき探究を進め、解決策を提案し、成果を発表します。

■ 富中サイエンス（中学）

科学の専門家による授業です。生徒の科学への興味関心を引き出すとともに、研究に関する高い志を抱く機会とします。

■ 課題解決型探究（高校）

課題発見解決能力育成のため探究Ⅰ（高校1年）・Ⅱ（高校2年）の探究活動を実施しています。活動の中では大学等の研究所を訪問し、最先端の研究を体験することで、科学技術への関心を高めることや、宿泊研修では国内及び海外でフィールドワークを行う体験重視の先進的な科学教育を実践しています。

《実施例》

みらい講座（高校）

大学の専門知識を持った大学教員や大学院生の研究テーマに関わる講義。専門的な内容への興味関心が高まり、課題研究の実験内容に関する指導助言を受けることにより課題研究の深化をめざします。生徒にとって最新の研究内容の講義を聞くことで理数科目の授業への取り組みが積極的になり、自身の進路選択についての意識向上を期待しています。（中学も受講可能）



演劇活動

■ 演劇的手法を用いたコミュニケーション力の育成（中学）

プロの劇団と連携し、寸劇を作成し演じることで基礎的なコミュニケーション力を育成しています。

地域協働（学生・地域人材等）によるサポート事業

■ 富中未来塾（中学）

火曜日の放課後に、大学生や地域人材等により生徒の自学自習をサポートします。（学習支援）

■ 部活動支援

大学生や地域人材等により生徒の部活動をサポートします。



地域学校協働活動の例

世界規模の課題解決型探究学習

- グローバルリーダー育成海外研修（中学・高校）
海外において多様性を理解し、課題に対して論理的に考え、解決する力を養うとともに、国際社会に貢献できる人材になるためのコミュニケーション力、プレゼンテーション力を育成します。
(中学：マレーシア、高校：アメリカ)



未来に挑戦する地域協働活動事業

- トップランナー講演（中学）
卒業生などを中心とした国際社会で活躍されている講師（ロールモデル）による講演会。世界を知り、自分の将来について考えるとともに社会貢献意識の育成を図ります。
- まなそだスカラーシップ（中学・高校）
地域学校協働本部「NPO 学びと育ち南河内ネットワーク」による奨学金制度。海外大学をめざしたい生徒や探究を深化させたい生徒を支援します。

地域学校協働活動の集大成として

■ まちと学校のみらいフォーラム（とんこう地域フォーラム）（中学・高校）

地域貢献活動の一環として毎年3月に開催します。連携企業・団体などのブース形式による発表や体験イベントをはじめ、本校生徒や地域の中学生、大学院生などによるポスターセッションを行います。地域協働をテーマにしたパネルディスカッションも行います。平成30年度は連携企業・団体22団体にご参加いただきました（令和元年度は28団体が参加予定）。全国への情報発信（HP、報道機関等）を積極的に行っています。

「令和元年度予定」

テーマ「SDGsを地域から」

内容

(1) ポスターセッションと地域交流イベント

○ポスターセッション

内 容： 富田林中学・高校生徒、小学生～大学院生による研究発表
参加団体： 京都大学、大阪教育大学、大阪府立大学、大阪芸術大学等

○地域交流イベント

内 容： 地域の諸団体によるブース形式での活動紹介および研究発表・交流会
参加団体： 企業、自治体、医療機関、NPO等

(2) 生徒発表・基調講演

生徒発表： 優秀研究プレゼンテーション、
グローバルリーダー育成海外研修報告
基調講演： 「地域で取り組むSDGs」
～私たちの学びと社会をつなぐには～

(3) パネルディスカッション：

テ ー マ： 「地域で取り組むSDGs、学びと社会をつなぐには」
パネリスト： 大学教授、企業代表、地域学校協働本部代表、
校長、中・高生徒会代表



みんなの声

学校運営協議会

- 制服制度の改善に向け、学校運営協議会が主体的に学校運営に参画できたことや、共に責任を負うことができることが成果です。
- 生徒のアイデアが地元自治体との協働により社会科での授業で実現されたことが大きな収穫です。



広域外部サポーター

- 地元の産業を若い世代に伝えられることは、我々にとって光栄なことです。地味なことですが、小さな努力を重ねていることを知っていただける良い機会を与えられたと感謝しています。(地元企業様)
- シティセールスとして市内、市外の子どもに市のことを知っていただくことは重要なこととなります。(地元自治体様)
- 地域に密着した情報誌として、富田林中学校の取り組みを今後も積極的に取材していくことで、読者にとっても興味深い記事を提供することにつながります。(地元報道関係者様)
- コミュニティ・スクールのしくみにより社会に出た生徒が活躍するのが楽しみです。(大阪府公民戦略連携デスク様)



生徒

- 将来のことや社会に貢献する仕事についてよく考えるきっかけになりました。世の中を変えるために、自分が何かを変えよう、新しくしていこうと考えたことはすごいことだなと思いました。自分もいつか、たくさんの人のためになるような仕事をしたいと思いました。(トップランナー事業)
- 初めてのパネルディスカッションは、とても面白く、先生が前で話すよりもより興味をひくイベントだった。(とんこう地域フォーラム)
- 今まであまり地域をどう思っているかと全然意識したことがなかったけれど、今日の発表で地域の課題を知ることができた。自分が頑張ることで周りを幸せにできるようにしたい。(とんこう地域フォーラム)



教員

- 生徒が企業様等と連携した探究活動を通じて、社会の課題に対する興味や関心が高まっていることや、知識が深まることに感心しています。何よりも探究の学びを続けていきたいという生徒の意欲が向上している様子が嬉しいです。

学校教育自己診断（生徒回答）結果

➤ コミュニティ・スクールを推進することで教育力が向上します。

≪グローバルな視野とコミュニケーション力の育成≫

- 「学校は国際交流、海外研修等を通してグローバルな視野やコミュニケーション力の育成に努めている。」
中学：89.0%（H30） → 93.2（R1） 高校：88.1%（H30） → 90.5%（R1）
- 「これからの時代や自分の将来について考える機会がある。」
中学：65.6%（H30） → 74.7%（R1）

≪論理的思考力と課題発見解決能力≫

- 「探究活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力などが身についた。」
中学：80.6%（H30） → 82.9%（R1） 高校：63.8%（H30） → 67.2%（R1）

≪社会貢献意識と地域愛≫

- 「探究活動において社会や地域の課題について考える機会がある。」
中学：90.3%（R1 新規）
- 「学校は様々な教育活動（授業・行事・総合学習・部活動等）を通して、社会への貢献意識や将来社会で活躍する力の育成に努めている。」
中学：89.9%（H30） → 91.8%（R1） 高校：88.5%（H30） → 88.6%（R1）

地球的な視野に立ち地域や国のことを考え、国際社会に貢献できるグローバルリーダーをめざす。

社会と協働で行うグローバル教育 “Think globally, act locally.”

～グローバルな視野とコミュニケーション力を育成します。～

グローバル教育

◆6年間を通じたグローバル教育

広域外部サポーターとの協働により中高一貫したグローバルな取り組みを展開します。

◆イングリッシュ・キャンプ

オールイングリッシュでのキャンプを通じて英語力をアップします。



◆海外修学旅行



In台湾(中学)

Inベトナム(高校)

◆日々の確かな英語力の育成



モーニング・イングリッシュタイム(中学)

コミュニケーション力育成



演劇的手法の活用(中学)



広域外部サポーター(同窓会・企業・大学・行政・NPO・地域住民等)と学校が共通のテーマで「課題解決に向けた取り組み」を協働することで双方の事業目的の達成をめざします。

世界規模の課題探究学習



Inマレーシア(中学)



Inアメリカ(高校)

未来に挑戦する地域協働事業

海外大学説明会



スカラシップ(中学・高校)



トップランナー講演(中学)

地域協働による探究学習

◆地域でとりくむSDGs

広域外部サポーターとの協働により、総合的な学習の時間(中学)・探究の時間(高校)を通じて社会の課題を解決する力を身につけるとともに社会貢献意識を醸成します。

※SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称

地域愛

南河内探究(中学)



課題提案型社会探究(中学)



課題解決型探究(高校)



まちと学校のみらいフォーラム(中学・高校)
(とんこう地域フォーラム)



富中サイエンス(中学)

社会と協働で行う探究活動

～論理的な思考力と課題発見解決能力を育成します。～